

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	福留 賢二
What factors impact the clinical outcome of magnetic resonance imaging-guided focused ultrasound thalamotomy for essential tremor?  (和訳) 本態性振戦に対するMRIガイド下集束超音波視床破壊術の臨床転帰に影響する因子は何か。			

### 論文内容の要旨

本態性振戦に対する MRI ガイド下集束超音波療法(MRgFUS)は、新しく有効な治療法であるが、その臨床転帰に影響する因子は明らかではないため、本研究を行った。

MRgFUS で治療した本態性振戦患者の連続 15 例を対象とし、Clinical Rating Scale for Tremor(CRST) の改善率と年齢、罹病期間、治療前 CRST、頭蓋骨密度比(SDR)、頭蓋骨体積、最大照射エネルギー、最高温度との相関を後方視的に解析した。

平均 CRST は、治療前は  $18.5 \pm 5.8$  点、治療 1 年後は  $4.6 \pm 5.7$  点であった。CRST 改善率は平均  $80 \pm 22\%$  であった。年齢が若いほど、また治療前 CRST が低いほど、CRST 改善率が高かった。50%以上の CRST 改善率を得るには、 $55^{\circ}\text{C}$ 以上の最高温度が必須であった。SDR と CRST 改善率に相関はなかった。SDR が低いほど、また頭蓋骨体積が大きいほど、高い最大照射エネルギーを要した。最高温度が高いほど、凝固集体積は大きかった。

年齢が若いほど、また治療前 CRST が低いほど、臨床転帰は良い。MRgFUS を行う際に、予測因子を評価することは重要である。